

— イメージによる分類とそのデザインの特徴 —

松坂女短大 川本栄子 渡辺澄子 上島雅子 近畿大豊岡短大 ○黒田喜久枝
 聖母女学院短大 中沢乃智子 愛知女短大 奥田聡子 奈良女大家政 中川早苗

目的 私達が日常着装する衣服には、非常にスポーティなものやドレスリーなもの、大人っぽいものや子供っぽいものなど、さまざまなイメージによる差異がみられる。本報では、このような多種多様なイメージをもつ衣服を、前報の因子分析結果で得られた主要な因子を基準にして分類し、イメージとデザインとの関連について検討した。

方法 ①前報の因子分析結果で得られた第1因子(カジュアル因子)第2因子(目立ち因子)への各服装サンプルの因子得点をもとにクラスター分析(Qモード法)を行い、全服装サンプルをイメージ別に分類し、それぞれのクラスター別にデザインの特徴を分析して、イメージとデザインとの関連について検討した。②イメージによって分類したクラスターを外的基準に、デザイン要素を説明変数として数量化Ⅱ類による分析を行い、各クラスターへの判別に寄与するデザイン要素について検討した。

結果 クラスター分析の結果、全服装サンプルを大きく4つのクラスターに分類することができた。①それぞれのクラスター別にデザインの特徴を分析した結果、下衣の形や組み合わせ、襟の形やデザインディテール、色相や色調などにおいてイメージ別の差異を明らかにすることができた。②数量化Ⅱ類による分析結果をもとに各クラスターへの判別に寄与するデザイン要素について検討した結果、下衣の形やデザインディテール、色相や色調であることが明らかになった。